

学校名	研究課題	研究手法
兼六中学校	教科一般	学習形態の工夫

## 1 研究の重点と具体的な取組

(1) 研究の重点「生徒が安心して学び合うことができる学習基盤づくり」

具体的な取組「きく（聴く・訊く）力の育成に重点をおいた授業づくり」

① 生徒指導の三機能を生かした授業づくりについて

主に「聴く力・訊く力」の育成を通して、共感的人間関係を育むことを意識した授業のあり方を、校内研究会・校内研修会、教科部会を通して研究する。

② 教育相談との連携により、レジリエンスやQ Uアンケートの活用について共通理解し、種々の教育活動を通して温かい人間関係の構築を図る。

(2) 具体的な取組

① 現職教育だよりをもとに全職員で共通理解した上で、研究の重点を明確にした研究授業を全員一人1回以上実施した。

また、校内研修会では、授業における机の配置や、「聴く姿勢（相手の方に顔を向ける・手には何も持たない）」「問い直しによる確認」「訊くために聴くことの意識」など共感的人間関係を構築するための工夫について意見交換をし、授業に生かす工夫を重ねた。研究授業においては、研究の重点が明確になるように、「聴く場面」「訊く場面」の工夫に焦点化した指導案様式とした。



② 教育相談担当が中心となって、レジリエンスおよび Q Uアンケートの活用について校内研修会で共通理解した上で、学年会を柱として研究を推進した。学級活動および道徳教育にどう生かせるかを協議し、学級での実践につなげた。また、校内における心温まるエピソードを校内放送で紹介する取組や、感謝を伝える手紙等によって、共感的人間関係の構築を図った。

## 2 取組の検証 <生徒アンケートより>

(1) 「先生や友だちの話をしっかり聴くことができた」生徒の割合は96.5%で目標を達成した。

(2) 「自分の考えを深めたり広げたりできる場がある」と答えた生徒の割合は95%で、昨年度より2%上回り、目標を達成できた。

(3) 「学校は、生徒と先生、生徒同士の温かい人間関係づくりに努めている」と回答した生徒の割合は、86%にとどまり、昨年度を1%上回ったが、学びの土台となる人間関係づくりには引き続き取り組む必要がある。

## 3 成果と課題

- ・「聴く力」の指導については、全職員で共通理解しながら取り組むことができた。12月に実施された評価問題では、国語科の「話す聞く」領域の結果はすべて市内平均を上回り、一定の成果が見られた。
- ・自他の意見を比べながら聴くことで、「聴く」から「訊く（質問力）」へと発展させ、「対話的で深い学びの授業づくり」についての研究を推進したいと考えている。